

科目名	言語発達障害学					授業の種類	演習	必修・選択		必修	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期		1年	前期
【授業の目的・ねらい】 国家試験に出題される検査のうち、小児分野で実施される発達検査および言語系検査について理解し実践することができるようになる											
【実務者経験】 言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、野間こどもクリニックなどに勤務。発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。											
【授業全体の内容の概要】 学内実習をはじめ、小児分野でSTが実施する検査について学ぶ 新版K式発達検査・S-S言語発達遅滞検査・FOSCOM・質問応答関係検査・絵画語い発達検査PVT-R・読み書き検査（STRAW-R、Reading-Test）について講義および検査演習を行う											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記各検査の内容を理解し、教員の指定した主要な検査項目について実施することができる											
回数	講義内容									準備物(教材)	
1	新版K式発達検査① 検査の概要について理解することができる									K式道具	
2	新版K式発達検査② 第1葉・第2葉の教示内容詳細・使用する道具について理解できる									K式道具	
3	新版K式発達検査③ 第3葉の教示内容詳細・使用する道具について理解できる									K式道具	
4	新版K式発達検査④ 第4葉の教示内容詳細・使用する道具について理解できる									K式道具	
5	新版K式発達検査⑤ まとめ・小テストにより発達検査についての理解を深める										
6	FOSCOM DVD視聴および講義により、コミュニケーション評価時のポイントを理解できる									DVD・PC	
7	S-S言語発達遅滞検査① 検査の概要について理解することができる									S-S道具・DVD	
8	S-S言語発達遅滞検査② 実施手順・検査教具を知り、教示方法について理解できる									S-S道具	
9	S-S言語発達遅滞検査③ サマリー記入方法・判定基準について理解できる									S-S道具	
10	S-S言語発達遅滞検査④ まとめ・小テストにより検査目的・内容の理解を深める										
11	PVT-R・質問応答関係検査の概要について理解することができる									PVT-R・質問応答関係検査	
12	インリアルアプローチの理論や言語心理学的技法について理解できる										
13	映像視聴により、インリアルアプローチの理解を深め、分析方法を知る										
14	読み書き系検査の概要について理解することができる									STRAW-R、Reading Test	
15	総まとめ・小テストによって各種検査の知識定着を確認し、定期試験対策に活かす										
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 各検査道具・検査用紙および検査マニュアル											
【準備学習・時間外学習】 授業内で学習した検査の内容の復習と、検査手技の反復練習を行ってください。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テストを10点、定期試験を90点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。											